

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念をきちんと掲げており、事業所内の目のつく場所に掲示してある。	<input type="radio"/>
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等の機会がある毎に理念を再認識し、理念に基づくケアに取り組んでいる。	<input type="radio"/>
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議やえんだよりで紹介し、理解を求めている。また、入所時に説明し理解していただく。	<input type="radio"/>
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や回覧板を持っていく時など、声を掛けており、近隣の方々とも顔なじみになりつつある。	<input type="radio"/>
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、運動会・文化祭・夏祭り・生き生きサロンなど、参加できる行事には出来るだけ参加していただいている。	<input type="radio"/>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は地域の方々への支援は行えていない状況にある。		今後は運営推進会議や自治会を通じ声掛け等行っていくと共に、自治会のたよりに時折載せてもらうなどして、気軽に相談窓口になれるよう、声掛けを行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議の場などで話し合いをし、皆で取り組むことで意義を理解するようにしている。また、開設時から、項目をクリアするように努めてきた。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、会議で状況報告を行い、話し合いを行っている。話し合った内容については必ず、議事録を作成し、活用している。	○	H19、4、25 推進会議で外部評価の流れを報告し、また結果も報告していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度の改正やわからない事など、介護保険課へうかがっている。	○	相談に行ったり、会議以外でも気軽にえんに立ち寄っていただくよう声掛けをおこなっていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修において学ぶ機会を得ている。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修によって学び、そのことを職員会議等によって他スタッフにも伝えている。また、他施設等で事件等があった場合、情報をもとに職員会議の議題に挙げ、その都度話し合いをしている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際や必要時には必ず十分に説明を行い、理解・納得を得ている。	<input type="radio"/>
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中で不満等、お聞きしている。御家族の面会の際には一声「何かなかったですか？」等の声をかけ、機会を作っている。	<input type="radio"/>
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時を利用し、定期的に報告を行っている。遠方に家族がおられる方や、特変時は必ず電話で報告を行っている。また、利用料金持参の際、金銭の残高、利用分を確認しサインを頂いている。	<input type="radio"/>
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や利用料金持参時など声掛けを行うようにし、家族の意見を伺う場を作る努力を行っている。必要なことは他スタッフにも伝え、話し合っている。	<input type="radio"/>
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等を通じ、話す機会を持っている。	<input type="radio"/>
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や入所者の身体状況などに応じて職員の勤務人数など調整している。	<input type="radio"/>
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者(健康面にて)があるも、再度入職を受け入れている。現在、他施設への異動はない。なじみの関係を大切にし、ダメージを防いでいる。	<input type="radio"/>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な勉強会や研修会へ参加する機会を設けると共に、職員間でもお互いに情報交換を行っている。法人内でも勉強会があり、参加している。	○	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者と連絡を取り合い、情報交換を行っている。	○	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員会議でざっくばらんに意見を出し合う時間を設けたり、年に数回、食事会等を実施することでストレス軽減に努めている。また、法人内でも花見やバレーボール大会などあり、参加している。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個別に面談を持ったり、全スタッフの場で話す機会を定期的に作り、徹底されている。	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	在宅や関連施設から入所希望のあった際はそのような機会を作っている。	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族よりの話をよく伺い、状況を把握するように努めている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他機関の事も頭にいれ、相談を受けており、必要ときは他機関に相談して応えている。	<input type="radio"/>	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に納得され安心してくださるよう、なるべく見学の間機会をもってもらっているようにしている。	<input type="radio"/>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に本人と寄り添いながらケアすることで、本人と共に生活できている。喜怒哀楽を表現しやすいよう、本人に色々な話を聞いたりし共有するようにしている。	<input type="radio"/>	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況、事情、気持ちをくみとり、一緒に悩み、考えるよう共感し、共に考えていくよう努力している。	<input type="radio"/>	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの生活歴、様々な経過をお聞きし、理解に努めている。それを基に支援できるようにしている。	<input type="radio"/>	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人やご家族の要望をお聞きし、馴染みの関係が途切れないよう、色々な場所にお連れしたり、面会を受け入れるなどの支援を行っている。	<input type="radio"/>	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士での関係を大切にし、必要時は間に入るなどすることで支援している。	<input type="radio"/>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所になった場合でも、他事業所との連携を図ることで関係を継続できるようにしている。他に行かれても面会に行ったり、家族にも会ったりして進めている。退所後も本人や家族が遊びにこられるような雰囲気作りを行っている。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活により近い暮らしを実現するために、家族や本人に生活歴をお聞きし、把握した上で生活していただいている。えんでの生活のなかでも出来る限り、本人のペースを尊重している。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、また、入所時の面談のなかでよく伺い、入所後もコミュニケーションを深める過程において、本人・家族より伺うようにしている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	観察を行い、他スタッフよりの意見を通じ把握に努めている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族にも確実に要望をお聞きし、職員間で話し合いの場を設け、それぞれの意見を出し合っている。それぞれ専門職の意見も聞き、プランに反映させている。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当ケアマネを中心に見直しを行うとともに、本人の身体状況が変化した際など、見直しを行い対応している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録を行い、毎日の様子やケア内容を記入している。それを基にプランへ反映させたり、ケアの統一を図っている。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常に家族や本人に要望をお聞きし、それに応じて可能な限り支援している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア等の受け入れは随時、行っている。地域資源と協力して支援している。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリ等については他機関の協力をもらっている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターは発足したばかりであり、今後、協働していきたい。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず、本人のかかりつけ医をお聞きし、かかりつけ医と連絡を取りつつ支援を行っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	連携医療機関と相談・連絡を行い、支援している。必要時には他医療機関への紹介をしていただいている。	<input type="radio"/>	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	これまで利用していた訪問看護や医療機関の看護師と情報交換を行い、医療面での支援を行っている。(えんでは看護師免許を持ったワーカーを中心に支援を行っている)	<input type="radio"/>	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には必ず、情報交換を行い連携を図っている。	<input type="radio"/>	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要な人に対しては、必要な時期に家族に話し、医療連携により相談しながら対応している。	<input type="radio"/>	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人のことを第一に考えつつも、全体的なことも考慮し、各方面に相談して話を進めている。	<input type="radio"/>	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族への説明を行い、悩みや心配を受け止め、安心して納得された上で移られるよう努めている。	<input type="radio"/>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関する記録についてはイニシャルを用いている。本人のプライバシーに関わるような話はしないようにしている。	○	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意見を尊重し、御希望に添えるよう支援している。1人1人性格や状態を把握し、理解に努めている。1人1人の気持ちを大切にしている。	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて支援している。1人1人の要望・希望をできるだけ優先して支援している。	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近所の美容室にお連れしたり、希望の方はえんで職員が散髪している。行事等は薄化粧等の声掛けをしている。	○	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりは好みを聞いたりしている。食材の下ごしらえや盛り付け・配膳等を手伝っていただいている。責任を持たれ手伝う事も生きがいに繋がっている。	○	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	その人に合った嗜好品を提供している。 (焼酎・養命酒等)	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1人1人の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。昼間はなるべく布パンツを使用している。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番等でトラブルになる事が多く、ジャンケンで入浴の順番を決めたり、職員の都合で決めている場合がある。		今後はなるべく利用者の要望に対応していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は散歩やレクリエーション等を取り入れ、夜の安眠につながるように支援している。昼間も時間を見て声掛けをし、生活のリズムを作っている。	○	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	興味のあることや趣味を知り、その人に合った支援を行っている。毎日やることで、できることに役割を持ってもらい、生きがい作りを行っている。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて買物にお連れしている。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや散歩・地域の催し物や行事等に参加し、季節を感じていただいている。近くに公園・お店があり、気軽にに行け喜ばれている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と連携を取りながら、結婚式・お墓参り等に出かけられるよう、えんも協力している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については本人の要望に沿うように対応している。手紙は本人の言葉を代筆している。本人と家族だけの携帯電話を利用している方もおられる。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室にお茶やお菓子をお持ちし、ゆっくり気兼ねなく話ができるような雰囲気作りを行っている。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	声掛けや見守り、あるいは手引き誘導を行い、危険防止に努めている。危険な状況が発生して場合には、すぐにどうするか話し合う機会を設けており、拘束は行っていない。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関口にはセンサーを設置、入りロドアにはドアベルをつけることで玄関入り口はいつも開放している。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認表を活用している。また、転倒等心配な方は頻繁に様子を把握している。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物等は昼夜、場所を決め、職員が管理している。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	薬については2人で確認を行い、チェック表への記入を行っている。また、1人1人の状況を把握し、危険防止に努めるとともにひやりはっとを書くことで意識付けを行い、他者の事で勉強している。職員会議でも話し合いを行い、情報を共有することで事故防止に努めている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が対応できる状況ではないが、すぐに看護師がかけつけてくれる対応をとっている。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的(年2回)に避難訓練を行い、地域の人にも協力をもらっている。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会の都度、説明を行い、負担にならない程度に説明をしている。状況に応じてリスクが高い場合等、随時報告を行っている。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	医療連携により訪問看護師や医者と相談しつつ、早目の対応を行っている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時薬が入ると必ず連絡帳に記入し、全職員が目を通し、把握するようにしている。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量のチェックを行うとともに、室内での運動を取り入れ、身体を動かす機会を作っている。食材も繊維のあるものを提供するよう心掛けている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	チェック表を作成し、声掛けしながらチェックを行っている。介助が必要な方は介助し、支援している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量のチェック表を作成し、1人1人の摂取量を把握している。食事だけで摂れない場合は本人の好みの物などで補うようにしている。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	資料をもとに消毒液を準備し、予防に努めている。関連病院と連携を取り、対応している。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	曜日を決め、調理用具・食器等、ハイター消毒を行っている。食材は1～3日おきに購入し、肉・魚類はその日に配達を頼んでいる。また、常に食材チェックを行い、古くならないよう管理している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は夜間以外は施錠せず、天気の良い日は開放している。建物周囲も季節の花を植えるなどし、雰囲気作りに工夫している。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、カーテン等で光を調整し、配慮している。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しており、入所者同士で話をしたり、たまには横になったりしており、思い思いに過ごしておられる。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室・和室は本人が希望した場合、できるだけかなえられるよう配慮している。また、本人が今まで使用していた物を持ち込み利用できるようにしている。	<input type="radio"/>	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	出来るだけ換気を行い、クーラーや暖房を使用し温度調節を行っている。消臭剤はわからない場所に設置している。	<input type="radio"/>	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を行い、手すりをつけ、事故を防いでいる。疲れたら休憩できるよう、ソファを設置している。ベッドにも必要に応じて移乗バーを設置している。	<input type="radio"/>	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人に合わせた声掛けをし、出来ることはして頂くよう支援している。それぞれの役割を持っている。	<input type="radio"/>	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	スロープをつけ、ベンチをおき、自由に景色や花・野菜を見たり、植えたりできる環境になっている。	<input type="radio"/>	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・自由に生き活きと、その人らしく生活を支援し、尊敬の念を持って接する。
- ・自分を遠慮なく、表出して生活しておられる。